27年12月分　　合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1．調査実施期間

平成27年12月1日～ 27年12月10日

2．調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は7社である。

3．判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)＝{(「増加」の評価を行った回答の割合)×2＋(「やや増加」の評価を行った回答の割合)－(「減少」の評価を行った回答の割合)×2－(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4．調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向　Weight. D. I.

品目		27/12月	28/1月	28/2月
入荷動向	スギ	△ 16.7	20.0	40.0
	ヒノキ	25.0	25.0	25.0
	カラマツ	16.7	40.0	40.0
	トドマツ	33.3	0.0	0.0
消費動向	スギ	16.7	20.0	0.0
	ヒノキ	0.0	25.0	0.0
	カラマツ	33.3	20.0	20.0
	トドマツ	0.0	△ 33.3	33.3
在庫動向	スギ	0.0	0.0	25.0
	ヒノキ	12.5	△ 12.5	0.0
	カラマツ	16.7	40.0	40.0
	トドマツ	66.7	66.7	0.0

・スギ原木の入荷は12月の減少が、28年1月、2月は増加。ヒノキ及びカラマツは3ヵ月連続して増加。トドマツは12月の増加が、28年1月、2月は横ばい。

・スギ原木の消費は12月、28年1月の増加が2月は横ばい。ヒノキは12月の横ばいが、28年1月は増加、2月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して増加。トドマツは12月の横ばいが、28年1月減少、2月は増加。

・スギ原木の在庫は12月、28年1月の横ばいが2月は増加。ヒノキは12月の増加、28年1月の減少、2月の横ばい。カラマツ、トドマツは3ヵ月連続して増加の傾向。

(2) 合板用原木購入価格動向　Weight. D. I.

品目	27/12月	28/1月	28/2月
スギ	33.3	20.0	20.0
ヒノキ	50.0	25.0	25.0
カラマツ	50.0	40.0	40.0
米マツ	△ 25.0	0.0	△ 25.0
北洋カラマツ	50.0	33.3	33.3
その他	0.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ、カラマツ及び北洋カラマツの原木価格は強含みで推移。

米マツは12月の弱含みが、28年1月は横ばい、2月は再び弱含み。
・その他は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

（原木荷動き）
・冬山造材が始まるため入荷量は増える。
・ここに来てカラマツが集まりにくくなって来た。消費は横ばい、カラマツの入荷は安定感がないがほぼ横ばい。
・カラマツ以外は入荷順調。多少生産増（減産緩み）。
・減産を緩和しているためスギ入荷量は若干増やしている。スギ消費量を増している。多少在庫は減少しているものの未だ原木土場に余裕はない。
・価格強含みも入荷は順調。マツ系需要期のため消費増。在庫はマツ系増量、他は変えず。
・年末休みでスギの入荷は減少する。ヒノキは在庫増で入荷をとめていたが、受入れスタートで入荷は増えてくる。消費は稼働日数で決まる。市場等の価格が下がっているため、当社への入荷が増え、在庫増と思われる。

（原木価格）
・カラマツは他のメーカーとの競争で強い。
・全体的に上昇、特にカラマツは上昇幅が大きい。
・国産材の価格に関しては、横ばいを維持。
・全般的に強含み。
・価格を維持して伐採意欲を下げずに行く。

27年12月分　　合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

４.調査結果の概要

(1) 生産動向　Weight.Ｄ.Ｉ.

品目		27/12月	28/1月	28/2月
生産動向	構造用(9mm)	△ 16.7	20.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 14.3	0.0	0.0
	〃 (15mm)	0.0	△ 16.7	0.0
	〃 (24mm)	14.3	0.0	0.0
	〃 (28mm)	0.0	△ 16.7	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	33.3	0.0	20.0
	〃 (12mm)	42.9	16.7	16.7
	〃 (15mm)	28.6	0.0	16.7
	〃 (24mm)	57.1	16.7	16.7
	〃 (28mm)	50.0	0.0	20.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 41.7	△ 10.0	△ 10.0
	〃 (12mm)	△ 71.4	△ 33.3	△ 16.7
	〃 (15mm)	△ 42.9	0.0	△ 16.7
	〃 (24mm)	△ 71.4	△ 33.3	△ 16.7
	〃 (28mm)	△ 57.1	△ 16.7	△ 16.7

・合板の生産は品目により12月、28年1月とも減少するもの、横ばいのもの、増加するものがまちまちだが、2月は全品目横ばい。

・合板の出荷は12月全品目が大きく増加し、28年1月は横ばいないし増加、2月は再び全品目が増加。
総じて出荷は増加傾向。

・合板の在庫は12月は全品目がかなり減少し、28年1月、2月もほとんどの品目で減少。
総じて在庫は減少傾向。

(2) 構造用合板出荷価格動向　Weight.Ｄ.Ｉ.

品目	27/12月	28/1月	28/2月
構造用(9mm)	50.0	0.0	20.0
〃 (12mm)	57.1	16.7	16.7
〃 (15mm)	28.6	0.0	16.7
〃 (24mm)	57.1	16.7	16.7
〃 (28mm)	42.9	0.0	16.7

・合板の出荷価格は12月は全品目が強含み、28年1月は横ばいないしやや強含み、2月は全品目やや強含み。合板価格は総じて強含み。

モニターからのコメント

（合板荷動き）
・生産量は先月と変わらないが、非構造用を生産するため9mm、12mmは減、その他は横ばい。出荷は全品目増加の予定、トラック手配が難しくなっている。出荷増分だけ在庫は減少。
・年末、年始は稼動日減。受注旺盛、トラック手配難により繰越か。在庫は更に減。
・12mm、24mmは動きが早いため生産を増加。1～2ヶ月間は12mm、24mmの在庫は減少。
・少量取り扱いのため変化なし。
・在庫状況に合わせて生産。本州メーカーの受注停止情報が入り、仮需が発生、ルート向けは好転しており荷動きは出て来ている。在庫は徐々に減少、増える状況にない。

（合板価格）
・15mmを除き価格を10円～20円アップで販売。
・値戻し（上昇）、先行きも上昇傾向。
・先月から強含みも年明けに落ち着くか？バランス次第か。
・今後の価格上昇に期待。